

2010 年度 高等部入学・始業式式辞

1 年生の皆さん、高等部への入学おめでとうございます。

2 年生・3 年生の皆さん、進級おめでとうございます。

いよいよ、2010 年度が始まりました。皆さんの高等部での生活が、本当に実りあるものとなるようお祈りいたします。この前の日曜日は、イースターでしたね。まさに、新しい命を覚えるとき、新しい出発の時です。このような時に、皆さんとともに礼拝を守り、高等部での新しい始りの時を迎えられますことを本当にうれしく思います。

佐藤先生の後任として、皆さんの高等部での生活のお手伝いをさせていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。(東洋英和という、私にとっても心に残る学院にご奉仕させていただくことを、本当にうれしく思っています。)

さて、今日は、1 年生の皆さんにとっては、入学式。2 年生・3 年生の皆さんにとっては、それぞれの進級を記念する始業式です。

1 年生の皆さんにとっては、初めての高校生活ということになりますね。

高等部での 3 年間は、将来の進むべき道に向かって、本当に大切な土台を作り上げる時期です。大人に向かっての第 1 歩を踏み出す時期といってよいでしょう。この 3 年間に得たもの、出会ったものが、皆さんの人生にもたらす大きさは、計り知れないものがあるように思います。勉強に、クラブ活動に、また様々な学校行事にと、皆さんの活躍の場はたくさん備えられています。失敗を恐れず、皆さんの持てる力を存分に発揮していただきたいと思います。

さらに言えば、言葉というものに対する感覚を養っていただきたいと思います。中学部の時から心がけているとは思いますが、活字に親しみ、活字によって考える力を養ってください。活字によって考えるとは、同義反復ですね。考えることは、言葉を使わなければできません。2 年生・3 年生にも言えることですが、本を読むことです。

そして、これが本当に大事なことです。授業を大事にすること。教科書を軽く見ないこと。高校段階の勉強は、あらゆることの基本です。社会に出て分かることですが、人間社会のあらゆることは、高校段階の知識があれば理解できます。逆になければ理解できません。「まずは基本を徹底的に覚えなさい。独創はそれから。」若いころ聞いた言葉ですが、本当にその通りだと思います。文系の人は理系科目を、理系の人は文系科目をおろそかにしないでください。

2 年生の皆さんは、文字通り高等部の中心となる学年です。いろいろな責任が加わってくると思います。勉強もしっかりするとともに、クラブ活動や様々な学校行事、あるいは一人ひとりやってみたいと思うこと。いろいろな可能性に挑戦してみてください。大切なのは「今」です。高校 2 年生という今しかできないことに、積極的に挑戦してください。そこで得た経験は、皆さんの宝となって新しい進路に立ち向かう時の大きな力となるはずです。

そして 3 年生の皆さん。皆さんにとっては高等部での生活のいわば仕上げのとき。それと共に、新たな進路を考える時期でもありますね。行き悩むこともあるかもしれませんが。一人ひとりにふさわしい道、ふさわしい時というものが必ずあるはず。あせることなく、またひるむことなく、着実な歩みを歩んで行ってください。

それぞれの学年が、皆さん一人ひとりが、それぞれの『かけがえのない今』を大切に歩んでいってほしいと思います。

さて、今日お読みいただいた箇所です。皆さんは、今まで、この学院で、ずっと聖書に親しんできたと思います。あるいはこの箇所も、読まれたことがあるかもしれません。私にとっても、とても印象の深い場所です。

若いころ、もう 30 年以上昔のことですが、初めてこの箇所を耳にした時のことを、いまでも思い出すことがあります。

旧約聖書の詩編第8編、なかなか雄大な詩編ですね。

あなたの天を、あなたの指の業を わたしは仰ぎます。
月も、星も、あなたが配置なさったもの。
そのあなたが御心に留めてくださるとは
人間は何ものなのでしょう。
人の子は何ものなのでしょう
あなたが顧みてくださるとは

『人間は何ものなのでしょう。
人の子は何ものなのでしょう
あなたが顧みてくださるとは』

さて、詩編の情景を思い浮かべてください。

満天の星。その下に一人立たされた自分。

私も、若い頃、夜空に、白く大きく流れる天の川を見たことがあります。私の上に、覆いかぶさるように流れていました。その時の震えるような感動を今でも思い出します。

大自然の中で、ただ一人神に向かい、神に問いかける。

「私は何者なのですか。なぜ、あなたは私のことを心に留めていてくださるのですか。」

それは、神様に見出されている喜びであると同時に、自分自身への問いかけでもあると思います。

人は、そのように生きているのです。一人ひとり、神様から見出され、生かされている。かけがえのない一人ひとりの人生を。

かけがえのなさは、旧約聖書の時代に生きた人にとっても、この現代社会に生きる私たちにとっても、変わるものではないと思います。

歴史の流れが、どれほどの時間を経過したか。どれほど多くの人たちが、この地球に生を受けてきたか。しかし、同じ人間は一人としていない。今、この地上に、どれほどの人が生きているか。しかし、同じ人間は一人としていない。今、この場に、私たちは集められている。しかし、一人として同じ人はいない。

神様から与えられた私たちの人生。それは、その人固有の、一度きり、そして、決して後戻りすることのない時間の流れの中にあります。私たちは、その人生をどう生きるか。今、皆さん一人ひとりにその問いが課せられているはずです。

『かけがえのない今』と先ほど言いましたが、この一瞬一瞬が私たちにとっては初めての出会いであり、二度と戻っては来ません。その時、その時が大切な時なのです。

十代後半の皆さんにとっても、61歳になったこの私にとっても、いまこの時は初めての時、初めての経験です。一年生の皆さんは、初めての高校生活。2年生の皆さんも、3年生の皆さんもこの学年は初めてです。今この時は、瞬く間に過ぎ去ってゆき、明日のことは思いません。与えられている今を、精一杯生きる。その上に、明日があるのです。

『明日は明日自らが思い煩う。一日の苦労はその日一日で十分である。』

イエスの語られる言葉の意味はとても大きい。そして大きな慰めでもあります。

一人ひとりが『かけがえのない今』を生きているのです。皆さんの今を、皆さん一人ひとりの『今』を本当に大切に過ごしてほしいと願っています。すばらしい出会いもあるでしょう。挫けそうになる時・苦しい時もあるかもしれません。しかし、その一つひとつの『時』に大切な意味があるはずです。それが、生きるということであり、自分というものを引き受けることなのだと思います。今年の年間聖句、ローマの信徒への手紙5章の『練達』という言葉に通じるものがあると思います。

『絶えず祈りなさい。』という呼びかけがありますね。

皆さんは、この学院で聖書に出会いました。そして、祈ることを与えられています。

祈りつつ、どんな時にも希望を持って、『かけがえのない今』を『かけがえのない自分』を大切にしながら、私と同じよう『かけがえのない一人ひとり』である友人同士助け合い・支えあって、素晴らしい学校生活を築いていってほしいと思います。

祈ること。そして、今生きてあることを喜び、感謝しつつ、一步一步前に進んで行ってほしいのです。

私もまた、皆さんと一緒に、前に向かって歩んでゆきたいと思います。

皆さん一人ひとりの、新しい歩みを心からお祈りしています。

2010 年 4 月 8 日

高等部部長 小林 敏